

（ユダヤ、イスラエルに思う①） 軍事国家イスラエル

長谷川 修

十年ほど前、パック旅行でイスラエルに行った。

出発の一週間前に添乗員から挨拶の電話を受けたが、その折の注意として「旅行ケースは施錠しないで下さい。保安検査で鍵が壊されます」には驚いた。

香港での「イスラエル航空」への乗り継ぎでは、パスポートの写真と本人の入念な照会、旅行ケースの保安に関する質問を受けて搭乗すると、機内広報誌に「世界で最も安全な航空会社で、墜落事故もハイジャックもない」とあった。安全なのは、パイロットに空軍出身者が多いこと、スカイマーシャル（一般乗客に扮した武装警備官）が数名乗っていること、厳格なセキュリティチェックにあるようだ。

入国後も、宗都エルサレムやパレスチナ自治区での警戒は空港並みだ。大きい荷物を放置したまま離れば、爆発物検査で持ち去られることがあるし、街中で体格の良い女性兵士が銃を持って巡回していることに緊張感を覚える。

イスラエルは一九四八年の建国以来四次にわたる中東戦争を戦ってきた。狭い国土の周りは全てアラブ人国家であること、自治区にはパレスチナ過激派を抱えていること等の事情で、常時臨戦体制を敷いている。国民皆兵制（男性は三年、女性は二年の兵役義務、男性は四一歳まで予備役）を採り、国防費は国家予算の約三十%を占める。

核兵器の問題は複雑だ。イスラエルは核弾道弾を保有していることを認めず、核拡散防止条約には未加入である。しかし国防省幹部の言では「最初の核を使用する国にはならないが、二番目に甘んじることはない」と曖昧だ。またイランの核兵器開発には猛反撥しており、情報機関モサドによるサイバー攻撃は昨今の報道が伝える通りだ。イスラエルの問題は世紀の難問で、解決への道筋は全く見えない。私の直感だが、三つの宗教の聖地を一国で囲い込んでいる限り、解決は不可能に思える。

（ユダヤ、イスラエルに関して、民族、宗教、歴史等の観点から興味を持っている。思いつく感想を、随時纏めてみたい。）